

2023（令和5）年度 施政方針

未来を拓く、なは☆

ひとづくり、まちづくり、ゆめづくり



那覇市[☆]

< 目次 >

1 市政運営の基本姿勢

- (1) はじめに
- (2) 未来を拓く、なは☆ひとづくり、まちづくり、ゆめづくり
- (3) 物価上昇等への迅速な支援及びコロナ対応
- (4) こどもたちの健やかな成長を育む土台作り
- (5) 経済のV字回復に向けて
- (6) 福祉の充実により支え合える暮らしの安心
- (7) 協働によるまちづくりの目指す姿
- (8) ワクワクあふれる都市基盤の整備
- (9) 平和の尊さ、豊かな文化を受け継ぐ心をいつまでも
- (10) DXのさらなる推進で市民生活をより便利に
- (11) 未来への種まき

2 予算編成と主要事業の説明

- (1) 予算編成の説明
- (2) 主要事業の説明

3 結びに

思いやりと寛容で、心をつないで

(はじめに)

はいさい ぐすーよーちゅーうがなびら。

私は、昨年的那覇市長選挙において「市民のために」、
「市民と共に」、「市民本位」を重要な視点に位置付けて
挑み、多くの市民の皆様からの負託を受け、第34代那
覇市長として歩み始めました。

当選後、たくさんの祝福をいただき、その期待の大き
さと責任の重さを痛感しております。市長として、32万
那覇市民の安全安心と暮らしに責任を持ち、本市の魅力
あふれるポテンシャルをより高め、那覇をさらに幸せに
満ちたまちにするため、私の全ての力と職員力、組織力
を最大限に発揮し、市政運営を行っていく覚悟でござい
ます。

市民福祉の向上をはじめ、経済の活性化、地域のさら
なる発展による「那覇の未来」を光輝くものとするため
に、ニーズを的確に捉えた、幅広い分野での施策を横断
的に展開しながら、立候補に際し決意した初心を忘れず、
どのような状況にあっても臆することなく^{ゆうおうまいしん}勇往邁進して
まいります。

市民の皆様並びに、本市議会の皆様におかれましては、
より良い市政の実現に向け、格段のご理解とご協力を賜
りますよう宜しくお願い申し上げます。

それでは、令和5年度の施政方針と予算案、主要事業
をあわせて説明申し上げます。

ゆたさるぐとぅ うにげーさびら。

(未来を拓く、なは☆ひとづくり、まちづくり、ゆめづくり)

私のまちづくりへの思いを、「未来を拓く、なは☆ひとづくり、まちづくり、ゆめづくり」という言葉で表現させていただきました。

この言葉には、様々な行政経験を積む過程において、未来に思いを馳せたとき、これからの時代に選ばれる自治体となるためには、包摂の心に満ちた寛容性と、誰もが違いを認め合える多様性が土台になると、強く意識した背景がございます。

そして、人々が笑顔にあふれ、支え合い、安心して生活が送れ、誰もがそれぞれの夢を描ける魅力的なまちでありたい、という思いが芽生えました。

この思いを形にするため、市民生活の向上に焦点を当て、市民目線を常に大事にしながら、すぐにやるべきもの・短期・中長期の観点から、様々な公約を掲げさせていただきました。

「ひとの“和”で、まちに笑顔を、ひとの“輪”で、まちに元気を」、那覇に、暮らし、働き、集う、全ての人々の夢があふれたまちが私の思いであり、その実現に向けて全力を傾けていく所存であります。

(物価上昇等への迅速な支援及びコロナ対応)

コロナ禍で長く影響を受けている市民生活や地域経済に加えて、国際情勢の急激な変化による物価上昇等により、私たちを取り巻く状況は厳しさが増しております。

私は、この問題に迅速に取り組むべく、就任直後に全世帯、子育て世帯、事業者等に対する支援を早急に講じてまいりました。

また、学校給食費の無償化に向けて、県内市町村長と連携し、県に対し令和5年度中の実現を積極的に働きかけ、引き続き家計負担の軽減に最善を尽くしてまいります。

今後も変化の激しい社会情勢を的確に捉え、新たに発生する幅広いニーズに対して、国や県の支援策や動向等を注視しながらしっかりと財源確保に努めつつ、スピード感をもって対応してまいります。

他方、コロナの対応については、社会の状況が変わりつつあることを踏まえ、国や県の動向を注視しながら市の責務をしっかりと果たしてまいります。

引き続き、様々な局面を乗り越えるため関係機関等と連携を密にしながら、ウィズコロナにおける「社会生活支援」及び「コロナ対応」の両立を促進してまいります。

（こどもたちの健やかな成長を育む土台作り）

こどもたちは、未来を明るく照らす那覇の宝であり、希望であり、こどもたちの元気で笑顔に満ちた那覇を実現することは、市政を担う者の責務であります。

私は、子育て支援はユニバーサルサービスの認識から、こどもたちの健やかな成長を育むことに全力を注ぎ、妊娠・出産・保育・就学・進学等といった子育ての各段階で、

きめ細やかな支援に取り組んでいく決意でございます。

現在、妊産婦に対する伴走型相談支援と経済的支援を一体とした「出産・子育て応援事業」に新たに取り組んでおり、近くサービスを開始いたします。

その他、待機児童解消、保育士支援、まなびクーポン等については継続して実施していくとともに、さらなる拡充による子育て支援サービスの向上を図ってまいります。

来る4月、「こども基本法」が施行されます。私は、この機会をしっかりと捉え、福祉、健康、教育、文化などのあらゆる場面において等しくその権利を保障する「こどもの権利条例」の制定に向け、関係機関や関係団体等と連携を深めながら、取組を推進してまいります。

また、令和6年度から努力義務となっている「こども家庭センター」の設置に向けても、検討作業を進めてまいります。

那覇に生まれ、学び、育ち、そして社会へ羽ばたいていくこどもたちの健やかな成長の土台となる、子育て環境の充実を図り、こどもたちの笑顔が^{さんさん}燦燦と輝くまちづくりを実現してまいります。

（経済のV字回復に向けて）

コロナ禍を契機に、地域事業者の生産性向上や高付加価値化、人材の育成が求められております。経済の回復に向けて、事業者のDX（デジタル・トランスフォーメーション）化等の側面支援を図り、「稼ぐ力」の向上を後押

しする取組を展開してまいります。

今年は、1月に国内クルーズ船が約2年10カ月ぶりに寄港し、今後、国際クルーズ船の寄港再開も予定されております。那覇港第二クルーズバースの整備も進み、また、国際航空路線の再開などによる観光関連産業の回復や、地場産業商品の消費拡大等を期待しているところでございます。

また、第一牧志公設市場が装いを新たに来月オープン予定でございます。多くの皆様方と共に、新たな市民・県民の台所の完成を祝いつつ、これをチャンスと捉え観光客など、たくさんの賑わいや活気にあふれる中心市街地を目指していきたくと思っております。

さらに、本市の充実した都市機能が集積する強みを活かした都市型 MICE は、地域への大きな波及効果が期待できることから、誘致促進に向け積極的に取り組んでまいります。

コロナ禍を乗り越え、力強い経済社会を実現していくためには、地域事業者の活力を最大限に発揮するとともに、那覇の優位性を生かした起業・創業のスタートアップなど新たな芽を生み出すことも肝要であり、その機運醸成を図ってまいります。

（福祉の充実により支え合える暮らしの安心）

コロナ禍により生活が一変し、私たちの暮らしに安心を見出しにくい状況が続いております。

昨年の市長選挙の際に、市民の皆様から「暮らしを守って欲しい」、「毎日の生活が不安だ」等の切実な声を多く受け、私は、その抱えている不安を和らげ、「日々の暮らしが安心して笑顔にあふれるまちをつくらなければならない」という思いを一層強くいたしました。

市民の皆様一人ひとりの人生においては、楽しいこともあれば辛いこともあるでしょう。市民の皆様が困った時、苦しい時には、市役所がその心にしっかりと寄り添い、声に耳を傾け、最善な支援を行ってまいります。

また、安心できる地域生活の実現に向けて、地域が抱える多様な課題には庁内横断的に解決を図っていくことが、私が目指す地域包括ケアシステム構築への足がかりになると考えております。

この先、地域社会がどのような状況にあっても、行政は、市民ニーズへの迅速な対応力、時代の潮流を捉え確実に前に進める先導力が強く求められていることを常に自覚し、市民の皆様が安心して暮らし、温かく優しさあふれるまちを目指してまいります。

（協働によるまちづくりの目指す姿）

協働によるまちづくりは、多くの皆様方のご参画のもと、裾野を拡げてきた本市の旗印でございます。

コロナ禍によって人々の行動が制限されたことなども影響し、地域コミュニティの希薄化や、自治会加入率の低下、担い手不足といった課題が顕著に現れており、こ

れに向き合っていかなければなりません。

この状況を打開するためには、地域の主体性をより尊重し、地域において課題を洗い出すことを促すとともに、専門性が求められる課題については、本市も一緒に解決を図っていくことが重要であると考えております。

その実現に向けた本市の役割として、継続した財政支援や活動拠点の提供に加え、地域運営の中心的な役割を担う小学校区まちづくり協議会が関係団体等との繋がりの中で、その機能を有機的に向上させるなど、幅広い視点から模索してまいります。

引き続き、地域ニーズを柔軟に捉えた新たな取組についてもしっかりと検討を進め、私が描く協働によるまちづくりを目指してまいります。

(ワクワクあふれる都市基盤の整備)

那覇の魅力向上の観点から、大きなポテンシャルを秘めているものの一つに、都市基盤整備の強化があります。

道路や公園等のインフラ整備を行う中にも、経済・観光振興の他、様々な分野の振興にも寄与するという多角的な視点が重要であると考えております。

街路樹の適切な剪定や雑草の抑制管理による、まち並みと調和した美観形成は、市民のみならず、観光客等の本市を訪れる人々にとっても心地良い印象を与えます。

また、パーク PFI 制度の推進を図り、キャンプ場やカフェ等の憩いの場を設置するなど公園の付加価値を高め、

その魅力を最大限に発揮し、利用される方が心ワクワクできる仕組みを作っていきたいと考えております。

他方、課題である交通渋滞については、国や県、民間企業の先進的な取組や周辺市町村ともしっかり連携し、短期及び中長期の観点から改善に向けて取組を継続してまいります。

本市が未来に向けて持続可能な都市としてあり続けるために、市民や那覇を訪れる人々を癒し、心地よく笑顔あふれる都市基盤の整備を進めてまいります。

（平和の尊さ、豊かな文化を受け継ぐ心をいつまでも）

「ウクライナ危機」を発端として世界の平和が脅かされている状況に、平和な日常が人々にとってかけがえのないものであることを、改めて認識しております。

平和を想う時、私は、ノーベル平和賞を受賞した故ミハイル・ゴルバチョフ元大統領を、市制施行 80 周年記念講演にお招きした時のあの熱い気持ちを思い出します。

「世界の問題解決のために団結しよう。われわれは同じ地球人」を示したゴルバチョフ元大統領のメッセージは、まさに「平和を希求する心」を掲げる本市の想いと通じるものがあります。

今日、不戦への決意を新たにし、「平和への想いを発信」、「平和の尊さを次世代へ継承」の想いをいつまでも大切に、平和行政に努めてまいります。

さて、私たちの暮らしに彩りや賑わいをもたらし、観

るものに感動を与える伝統文化は、琉球王国時代から紡いできた心が今なお脈々と受け継がれております。

その文化芸術の発信拠点である「なはーと」においては、こどもから高齢者、障がいのある方やない方など全ての方に包摂の心で「うとぅいむち（おもてなし）」あふれた文化に親しめる場所として、さらに魅力を高めてまいります。

また、私たちの心の拠り所である首里城においては、昨年、関係者のご尽力による正殿の本体工事が始まり、念願の復元に向けた流れに胸が高鳴っております。

諸外国の国賓のうとぅいむちや、琉球文化を発信する芸能の殿堂でもある御茶屋御殿の首里城と一体となった早期復元に向けても取り組んでまいります。

先人から受け継いできた伝統文化の発展は、私たちの使命であり、紡いできたその心をいつまでも大切にしていまいります。

（DXのさらなる推進で市民生活をより便利に）

DXの推進による市民の利便性及び行政の生産性の向上は、優先すべき政策の一つであり、国においては、行政のデジタル化やマイナンバーカードの普及等、デジタル政策の推進を加速させております。

また、今後、自治体においては、DXの推進と並行してアナログ規制の見直し等が求められ、既存の規制は幅広い分野に及んでいるため、その見直しには、全庁横断的

な対応が求められております。

本市においては、令和5年度から10年度までの6年間を推進期間とした「那覇市DX推進計画」に基づき、デジタル技術を戦略的に活用した「市民サービスの向上」と「行政事務の効率化」に繋がる取組を加速させ、市民満足度を高めてまいります。

あわせて、デジタル技術に不慣れな市民にも配慮したアクセシビリティの向上と、サポート体制を整えていくことで、デジタルの恩恵を最大限に生かしつつ「誰ひとり取り残さない、人にやさしいデジタル化」を目指してまいります。

DXのさらなる推進は、本市の発展に欠かすことの出来ない重要分野でもあるため、本市の総合力を結集し、私はその先頭に立ってスピード感のある取組を展開してまいります。

（未来への種まき）

現在的那覇市の発展は、新都心地区・小禄金城地区等の米軍基地返還後の跡地利用、モノレールの稼働等が大きく貢献しております。それらは、多くの先達のたゆまぬ努力が結実したレガシー（遺産）であり、その恩恵に心から感謝するものです。

私は、数年単位では達成出来なくとも、将来大きな果実となるものを5つの中長期重点項目として掲げ、挑戦してまいります。

その一つ目に、那覇軍港の早期移設を推進して「地権者と連携した跡地利用計画の策定」、

二つ目に、ひとの移動に優しい都市交通網の充実を目指した「LRTの導入に向けた具体的な検討」、

三つ目に、地域で暮らす全ての市民の安全・安心が広がるまちづくり「地域包括ケアシステムの構築」、

四つ目に、さらなる居住環境の充実を目指した「密集市街地の再整備」、

五つ目に、ゼロカーボンシティ宣言による「脱炭素社会実現に向けた取組」でございます。

この5つの将来への実現に向け、歩みを踏み出してまいります。今は小さな種でも、未来を担う次の世代に大きな果実を残すことができるよう、その芽が出るベクトルをしっかりと見極め、実現をイメージしながら、忍耐強く取り組んでまいります。

予算編成と主要事業の説明

（予算編成の説明）

それでは、令和5年度予算案の概要を申し上げます。一般会計予算は1,686億7千7百万円で、対前年度比91億6千2百万円、5.7%の増で、過去最高となっております。

歳入予算では、主に市税収入は、固定資産税や個人・法人市民税、市たばこ税などの増収、県支出金は、障害福祉サービス等給付費県負担金などの増収により、増額を見

込んでおります。

一方、国庫支出金は、コロナ関係補助の縮小などにより、減額を見込んでおります。

歳出予算では、引き続き、感染症対策を講じながら、子ども政策分野やアフターコロナを見据え経済分野に重点的予算を計上するほか、全庁的なDX推進への対応、市営住宅等の建設事業、学校教育関連事業、市立病院建替えなど、各分野へ幅広く予算を計上しております。

結果として、約19億6千7百万円余りの収支不足が生じておりますが、財政調整基金から取り崩して対応いたします。

企業会計を除く特別会計予算は、総額約758億276万7千円で、対前年度比約24億3,333万3千円、3.3%の増となっております。特別会計予算の増額は、主に国民健康保険事業特別会計によるものとなります。国保特会の財政赤字に対しては、引き続き一般会計からの政策的な繰り入れを行います。

(主要事業の説明)

次に令和5年度の主な事業を、第5次那覇市総合計画で掲げた5つのめざすまちの姿に沿って、ご説明いたします。

それではまず、「多様なつながりで共に助け合い、認め合う安全安心に暮らせるまち NAHA」に係る事業についてご説明いたします。

(小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり)

地域活動がコロナ禍によって制約される中、地域のつながりを高めていくため、地域の声に耳を傾け、寄り添いながら人的・財政的な支援をしっかりと進めていきます。豊かな地域社会の構築に向け、引き続き小学校区まちづくり協議会の設立を推進するとともに、協働のパートナーとの連携を図りながらその機能を有機的に向上させ、協働の輪を広げていきます。

地域の課題解決・魅力向上を目的に、ボランティア人材と受け入れ団体のマッチングを図るとともに、社会貢献活動を行う市民活動団体やボランティア、企業などの取組を支援していきます。また、協働の輪をさらに広げるために、那覇市協働によるまちづくり推進協議会が実施する事業を支援します。

(地域の力が重なる安全安心のまちづくり)

安全で快適な生活環境と交通事故のない住みよいまちを実現するため、保安灯や防犯カメラの設置、交通安全運動について、補助金を交付するなど、市民・団体と一体となって取り組みます。

消費者被害の拡大防止のため、啓発活動や消費者教育、相談業務等に取り組み、安全安心な消費生活の確保に取り組みます。

生活に困窮している方に対して、生活保護に至る前の第2のセーフティネットとして、生活や就労などの自立

に向けた支援を伴走型で実施します。

外国人が安全安心に暮らせるために、健康保険、年金、福祉、教育等の市民サービスが受けられる相談体制等を充実します。

消防力強化に向けては、(仮称) 識名出張所の整備を進めるとともに、消防・救急活動に必要な消防ポンプ自動車や高規格救急自動車の更新を行い、市民の安全安心を確保します。

地域社会と多様なつながりがある「那覇市女性防火クラブ」の活動へ補助を行い、市民と協働で地域の防災力を高めていきます。

災害時において重要な情報伝達手段となる防災行政無線の高機能化及び更新を図り、災害対応力の高い安全で安心できるまちづくりを推進します。

(交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり)

ブラジル・サンビセンテ市との姉妹友好都市提携 45周年を迎えることから、両市を相互に訪問し、今後一層の相互理解と友好的親善交流を築きあげていきます。

(人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり)

子どもへの暴力防止に向けた問題解決能力を高めるため、デートDVや将来のDV防止等につなげる思春期の子どもたちの「人間関係づくりを考える」プログラムを実施します。

次に、「互いの幸せを地域と福祉で支え合い誰もが輝くまち NAHA」に係る事業について、ご説明いたします。

(地域で暮らし 地域で支えるまちづくり)

地域で悩みを抱える方が孤立しないよう、自治会等が訪問活動を行う「地域見守り隊」の結成促進及び充実を図り、住み慣れた地域で誰もが安心して生活できる地域づくりを推進します。

高齢者が生きがいをもって社会に参画し、安心して暮らすことができるよう「第9次なは高齢者プラン」を策定し、様々な高齢者保健福祉施策を推進していきます。

市内18カ所にある地域包括支援センターをとおして、高齢者が住み慣れた地域で自立した日常生活を継続して暮らせるよう支援を行います。また、地域の各種資源を有機的に連携させた支え合いの仕組みづくりを進めます。

障がいのある方に対して、各種障害福祉サービスによる日常生活等の支援を実施するとともに、自立、社会参加の促進を図ります。

深刻な子どもの貧困に対応するために、庁内に26名の貧困対策支援員を配置しており、また実情に応じて子どもの居場所を設置して、貧困状態または将来的に貧困に陥る可能性がある児童の自立に向けた支援を実施します。

(すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり)

これまで特定健診や保健指導を受ける機会がなかった

国民健康保険加入者以外の 20 歳から 39 歳までの市民に対しても、生活習慣病予防に向けた健診を実施します。

妊婦健診や予防接種、お子さんの成長記録などの管理ができる親子健康手帳アプリの活用を勧めると同時に、予防接種時期や子育てなどに役立つ情報を広く提供し、安心して出産・子育てができるようサポートします。

若年妊産婦が家庭や社会から孤立することなく、安心して妊娠・出産・子育てができる居場所を確保するとともに、復学・就学、就労などの自立に向けた支援を行います。

(身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり)

地域医療を守る急性期病院としての役割を維持するだけでなく、機能強化により、本市の医療水準のさらなる向上を図るため、老朽化した那覇市立病院の建替えを引き続き推進します。

次に、「次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち NAHA」に係る事業について、ご説明いたします。

(子育てが楽しくなるまちづくり)

経済的な理由で学校外教育を受けることができない子どもたちに対しては、対象世帯を拡充した、学習塾等で利用できるクーポンの提供を継続して行い、学びの格差解消に向けて取り組みます。

保護者が就労等で日中家を留守にする小学生の受け入れを行っている放課後児童クラブの取組を促進するとともに、待機児童の解消を目指し、保護者が安心して就労できる環境を整えます。

放課後に児童クラブを利用していない児童を対象に、児童館を活用した子どもの居場所を提供するモデル事業を実施します。

認可保育所等の1歳クラスについては、ゆとりをもって安全に保育が可能となるよう国の基準以上の保育士配置を推奨し、そのために必要な支援を実施します。

認可外保育施設については、入所児童及び保育従事者等の健康管理の向上や、乳幼児の睡眠中の安全対策に対して、引き続き支援を行い保育の質を高めます。

就学前の子どもとその保護者を対象に、育児相談講習などを行う地域子育て支援拠点を市内17ヶ所に設置しており、子育ての負担緩和を図り、安心して子育てができる環境を整備します。

就学前教育保育施設の保育従事者に対し、専門講師による研修を実施し、保育の質の向上を図ります。

子どもと家庭に関する悩みや不安を抱える方に対して、窓口相談や訪問等により世帯の実情を把握し、継続的な支援を行います。また、関係機関と連携し育児支援等の子育て支援事業を通じて、ヤングケアラーへの対応や児童虐待の未然防止及び早期発見、早期対応に取り組みます。

認可園、認定こども園において、支援を要する園児に対し、特別支援教育を推進します。

認可保育所、認定こども園、家庭的保育事業所、小規模保育事業所及び事業所内保育事業所において、入所希望の医療的ケア児の受入れを可能とするため、看護師の配置体制等の整備を行います。

公立小中学校に在籍する児童生徒の保護者で、学用品費や修学旅行費等の支援が必要な方に対する就学援助について、費目追加や単価引き上げの拡充を図ります。

物価高騰により影響を受ける学校給食費等については、保護者の負担が増すことがないよう食材費の高騰分を公費負担とします。

(自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり)

児童生徒の運動部活動及び文化的活動について、九州大会以上の県外大会へ派遣される場合の支援を充実し、引き続き補助します。

小中学校において、むし歯予防に効果的であるフッ化物洗口を実施し、児童生徒の発達段階に応じたむし歯予防対策を推進します。

教職員の ICT 活用指導力の向上のため、学校からの問い合わせに対応する「GIGA スクール運営支援センター」(コールセンター)を引き続き実施していきます。また、タブレット端末の家庭への持ち帰りを実施し、家庭学習の充実に向けて学習環境の拡充を図ります。

教職員の労働安全衛生環境を確保するとともに、教職員が教育活動に専念できるよう産業医の配置を拡充し、適切な職場環境づくりに取り組みます。

学校施設については、松川小学校、古蔵小学校、若狭小学校及び松島中学校の屋内運動場等の改築工事を進め安全安心な教育環境を確保します。また、施設の長寿命化対策とあわせ内部改修に取り組み、ICT 等の教育環境の変化に対応できる施設整備を進めていきます。

(生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり)

奥武山野球場施設等については、照明設備及びスコアボードのフルLED化を実施し、省エネによる環境負荷の低減を推進するとともに、スポーツ環境の充実とイベント開催会場としての付加価値を高めていきます。

漫湖公園市民庭球場については、人工芝コート等のリニューアルを行い、スポーツコンベンション誘致施設としての魅力・利便性の向上を図るとともに、生涯スポーツ活動拠点としての活性化を推進します。

部活動以外のスポーツ活動において、市・県を代表して県外に派遣される児童生徒に対しては、支援を充実し、広い視野を持つ人材育成及び競技力の向上に取り組みます。

地域住民の参画を得て、放課後等に多様な体験・交流活動の機会を提供する放課後子ども教室を引き続き実施します。

(郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり)

文化の拠点である那覇文化芸術劇場なはーとにおいては、市民が多彩な文化芸術に触れる機会や、文化芸術に関わる方々との交流等ができる事業を効果的に実施します。

民俗芸能を披露する地域文化芸能公演を実施し、本市の指定無形民俗文化財等を文化資産として普及・継承・発展させていきます。

次に、「ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち NAHA」に係る事業について、ご説明いたします。

(ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり)

コロナ禍の影響を受けた本市の経済的閉塞感を打破し、本市の稼ぐ力を一段と高めるために、都市型 MICE の誘致促進に取り組みます。

本市の伝統行事であり観光資源である「那覇ハーリー」「那覇大綱挽まつり」「琉球王朝まつり首里」の各種イベントについては、コロナ感染状況を見極めながら開催に取り組み地域活性化や産業振興につなげます。

(様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり)

経済産業における DX 化については、事業者の取組状況やニーズについて把握・分析を行い、事業者の DX 化

を促進し、地域経済の振興を図ります。

那覇市ぶんかテンプス館と那覇市伝統工芸館については、施設を取り巻く様々な環境の変化や新たな利用者ニーズと賑わい創出に対応するため、両施設の一体的活用に向けた取組を進めます。

企業が抱える様々な経営課題の解決を支援し、経営基盤の強化を図るため、引き続き専門家の派遣やセミナー等を開催します。

泊漁港については、水産関係団体等へのヒアリングの実施や港内の施設利用等の実態調査を行い、ポテンシャルを活かした将来構想を策定するとともに、機能強化を図るため、水産関係団体が進める施設整備についても支援します。

市の魚「マグロ」については、知名度向上を図り、流通安定・普及推進に繋げるとともに、生産者支援や販売促進など産地機能の強化、拡大に向けた取組を支援します。

戦後の大嶺地区の土地接收等により、漁業の拠点施設を失った漁業者等を支援するとともに、本市水産業の振興のため那覇空港南側船揚場の整備に引き続き取り組みます。

那覇軍港の跡地利用については、地主会との合意形成や関係者との連携を深め、そのポテンシャルを活かした跡地利用計画の策定づくりに取り組みます。また、本市の発展につなげられるよう産業の進出可能性調査を様々な視点から実施していきます。

那覇港は、本県の物流・人流を支える重要インフラであり、機能強化等を図る那覇港管理組合の取組を引き続き支援し、コロナ禍からの地域経済の回復及び活性化につながるよう連携していきます。

（中心市街地を活かしたまちづくり）

商店街の活性化を目指して、商店街等が行うイベント開催等による誘客や課題解決に向けた取組に対し、頑張るマチグッー等支援基金を活用し、継続して支援を行います。

中心商店街における様々な迷惑行為については、関係部局で構成するプロジェクトチームを立ち上げ、解決に向けた取組を始めており、引き続き、良好な地域環境の確保に向けて取り組みます。

新たに生まれ変わる第一牧志公設市場については、中心市街地への回遊性を促進するため、調理体験室・多目的室を活用した「食」をテーマにしたイベントを開催する事業者・団体等を支援します。

新第一牧志公設市場の東側に位置する市場中央通りのアーケード再整備につきましては、訪れる人が安全安心で快適に、買い物や散策が楽しめる魅力ある中心商店街の環境整備のため、完成に向けて引き続き支援します。

次に、「自然環境と都市機能が調和した住みつづけたいまち NAHA」に係る事業について、ご説明いたします。

（省エネを実践し、資源が循環するまちづくり）

脱炭素社会の実現には、私たち一人ひとりのライフスタイルに対する意識や行動が重要となります。今後のゼロカーボンシティの宣言を見据えて、暮らしを脱炭素化する“ゼロカーボンアクション”の普及啓発を図るとともに、地球温暖化対策実行計画（区域施策編）を包含した第3次那覇市環境基本計画を策定します。

民間資金を活用した一括調達方式により道路・公園にLED照明を導入し、省エネで環境にやさしい取組を推進します。

（自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり）

高齢者や子ども、障がいのある方など誰もが利用しやすいインクルーシブ・ユニバーサルデザイン公園を目指して、整備を推進します。また、老朽化した遊具等を適切に更新し、安全安心な公園環境を創出します。

公園の機能を高め市民が快適で楽しく過ごせるよう漫湖公園・新都心公園において、官民連携事業であるパークPFI等について引き続き取り組みます。

道路の除草を計画的に実施するとともに雑草抑制対策等に取り組み、都市環境の美化及び快適な道路空間を確保します。また、街路樹の剪定や花木の植栽^{かほく}を適切に行い、亜熱帯気候ならではの景観を創出し、観光都市としてふさわしい道路空間の提供を行います。

(暮らしして良し歩いて楽しい快適なまちづくり)

管理不全な空家等の所有者に対して、法に基づく助言・指導を行うとともに、除却費用を一部補助するなど、生活環境の保全と市民の安全安心の確保に取り組みます。

地域特性を活かし、安全安心なまちづくりを進めるため、「那覇市密集住宅市街地再生方針」の見直しを行い、密集住宅市街地の防災性の向上、土地利用の増進に向けて取り組みます。

住宅確保要配慮者の専用賃貸住宅として登録する家主等に対して、改修費の一部補助を実施するとともに、不動産業者等に同制度の周知・啓発を行い「専用住宅」の登録拡大を図ります。

中心市街地、真和志地域、新都心地域の3つの拠点を結ぶ基幹的な公共交通LR T導入に向けて、関係機関との協議を進めていきます。

石嶺、大名、宇栄原、真地の各市営住宅の建替工事を進め良好な居住環境の形成を図り、快適に住むことができる住環境を整えていきます。

犬猫の適正飼養^{しやう}の普及啓発を行うとともに、飼い主のいない猫への不妊去勢手術や「地域猫活動」を実施するサポーター育成などに取り組み、人と動物が共生し快適に暮らせる社会の実現を図ります。

(災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり)

久茂地前島線や久茂地9号等の道路については、歩行

空間の確保やバリアフリー化等の整備を進めるとともに、老朽化した道路橋の修繕を実施し、安全で人にやさしい道路空間を確保します。

城東城北線や石嶺線、一銀線等の都市計画道路については、交通渋滞の緩和や安全で快適な歩行空間の確保、バリアフリー化等の整備を図り、体系的な道路網の整備を進めていきます。

水道水の安定供給のため、引き続き、市内一円の基幹管路の耐震化を推進するとともに、豊見城配水池^{とみしろ}建設工事を進めていきます。

また、公共下水道の整備による生活環境の改善及び浸水被害の軽減を図るため、首里山川町地内等の汚水の未普及地区解消、首里石嶺地区の雨水調整池の整備、ハーゲラ川幹線の改築等を進めるとともに、下水道ストックマネジメント計画に基づく修繕・改築に取り組み、安全安心のまちづくりを進めていきます。

最後に、「市民との信頼を深め、効率的で効果的な行財政運営を行う」に係る事業について、ご説明いたします。

(市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり)

マイナンバーカードは、今後もデジタル社会の基盤として活用されるため、引き続き発行業務を推進し、普及促進を図ります。また、マイナンバーカードを利用したオンラインによる転出・転入の予約受付を実施し、市民生活の利便性向上を図ります。

デジタル技術やデータを活用して、行政サービスのデジタル化・オンライン化を進め、市民の利便性向上を加速させるとともに、AI等の先進技術の活用により行政事務の効率化を推進します。また、民間からデジタル専門人材を受入れるなど、DXの底上げを図ります。

（効率的で効果的な行財政運営を行う）

自治体DXにおける重点取組の一つである、自治体情報システムの標準化・共通化に対応するため、住民基本台帳・税・福祉等の基幹系20業務を令和7年度末までに国に準拠したシステムへ移行し、住民サービスの向上等に取り組みます。

新真和志複合施設については、官民連携による施設整備に向け事業者の公募を実施し、引き続き真和志地域の活性化に向けて取組を推進します。

（結びに）

市政運営にかける私の思い、令和5年度の予算案や主要事業の概要などについて説明いたしました。

最後に、もう一言、私の思いを添えさせていただきます。

（思いやりと寛容で、心をつないで）

私は、副市長時代から先入観を持たず、広く平らかな心を肝に銘じ、多くの方々とお会いし、様々な声に真摯に

耳を傾けてまいりました。

その声は、これまで 38 年間の行政経験の中で学び、培ってきたもの全てを、育ててくれたこの那覇に還元してまいりたいという、私の思いを強くさせてくれました。

この思いを実現していく中において、これからも魅力ある自治体になるには、思いやりあふれる寛容性と多様性を相互に結び付け、本市の持つパワーを最大限に引き出すことが重要であると考えております。

寛容の心で、互いの違いを認めつつ、その違いを乗り越え、共に手を携えていけば、私たちの歩む道が開けてくるものと信じております。

那覇の明るい未来を展望し、鳥の目のように遠くのこともまで目ざとく捉え、兎の耳のように変化にスピーディーに対応し、様々な情報収集を高めた^{えんちくとし}鳶目兎耳の姿勢で邁進していく所存でございます。

尊敬するアップル創業者、故スティーブ・ジョブズ氏の『自分の心と直感に従う勇気を持ちなさい。』という言葉に胸に、勇気と自信、覚悟を持って市政運営の舵取り役を担ってまいります。

これから歩いていく道のりは決して平坦なものではなく、山あり谷ありの様々な場面に真正面から向き合い、一つひとつ着実に乗り越え、一心に歩いてまいります。

市民の皆様並びに議員各位におかれましては、ご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます、令和5年度施政方針の結びの言葉といたします。

いっぺーにふえーでーびる。

令和5年2月8日

那覇市長

知念寛



♩=96

あ け ぼ の き よ き み ん な み の
 み な と に ぎ わ う も も ふ ね や
 ま ち は い ら か の か ず ま し て
 い や さ か え ゆ く わ が な は し

那覇市歌

発行 2023 年 2 月
 那覇市企画財務部企画調整課



那覇市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。